



真言宗のご本尊

真言宗のご本尊は大日如来です。天光寺のご本尊もこの大日如来(マハーヴァイローチャナ)様です。大日如来の真言は「オン アビラウンキャン バザラ ダトバン」と唱えます。大日如来は、全ての目的を達成する菩薩してこの世に現れました。菩薩は苦行の果てに悟りにいたりしました。金剛とは「悟りの智慧を体現する大日如来を中心とした諸尊の集まりのことです。」

真言密教とは

真言宗とは、弘法大師(空海)の立教開宗による、仏教の心髄の教えを説く宗派です。弘法大師によって、平安時代のはじめに中国から日本に伝えられた神秘的な宗教で、「密教」の「密」とは「秘密」を意味します。秘密といっても、その内容が隠されているということではありません。その教えがあまり深遠で、その境地に達したものの以外にはうかがうことができないことを、意味しているため「秘密仏教」、すなわち「密教」と呼ばれました。真言密教を会得することにより、「悟り」へと近づくことができます。密教の根本の仏様は、宇宙の本体であり、絶対の真理である「大日如来」です。

真言宗臼杵山天光寺住職 高尾聖賢



〒190-0214 東京都西多摩郡檜原村字本宿801-2

TEL: 042-598-3133 FAX: 042-598-3177

URL | <http://www.tenkouji.jp/> MAIL | info@tenkouji.jp

発行日 平成 24 年 6 月 16 日 発行人 天光寺 住職 高尾聖賢

天光寺の祭壇

天光寺には祭壇に大日如来が安置されていて訪れる人々を温かく迎えてくれます。

その温かい目はやさしくも厳しく、見つめるものをして心洗われる心境になります。



三曼荼羅

種字曼荼羅

真言密教を印象づけるものとして「真言」と呼ばれる呪文のような言葉と「種字」と呼ばれる仏をあらわす文字の二つがあります。真言は、サンスクリット語のマントラの音訳であり、祈禱や呪文などの意味をもつ言葉です。この言葉の霊力で、人々の願いを叶えることができ、様々な利益(りやく)を得ることができるものとされます。種字は、仏や菩薩などを梵字一文字で表現したものです。



胎藏界曼荼羅

胎藏界曼陀羅とは、大悲胎藏曼陀羅といい、菩提心、大悲、方便という大日如来に完全に具わっている仏の真実のあり方を図にしたものです。胎藏界曼陀羅とは、母胎を意味し、仏の真実が、あたかも母親の胎内に蔵され、やがて時を得て出産するような、実在の世界像を表しています。金剛界が「智」に対して「理」の表現と言えます。

金剛界曼荼羅

荘厳なる大宇宙のヴィジョンの曼陀羅。ありとあらゆる仏たちがいます。ひとつひとつが、その意味が認められ、中心となるべき仏のもとに配置されています。秩序と調和、多様性の合一。これこそが、密教の提示する大宇宙のヴィジョンです。「金剛界曼陀羅」とは、「金剛如来」の曼陀羅という意味であり、大日如来自らを「一切義成就菩薩」として現し、修行の末に「如来」となって開眼した悟りの世界です。



先祖供養

先祖の苦しい思いを現世に生きる自分が仏の道を歩むことにより先祖を解放してあげることです。こうすることで、霊障現象がなくなるのです。明るい未来を築くために極めて重要な儀式です。

ご先祖の願い事を、先祖供養により、叶えてください。子孫が苦しければ、先祖も苦しいはず。先祖供養により、ご先祖の念を解いてください。私たちは、父母によって肉体の命を授かり、その父母の強い愛情、様々な思い(念)によって、生まれてきました。また、その父母も同様に、各々の父母から、愛情や思いを注がれてきました。私たちの父母もやがて天寿をまっとうすれば、やはり先祖になります。私たち一人一人の命は、先祖代々の様々な思いによって、今があるといっても過言ではありません。では、私たちは、そのような思い(念)をありのままに受け取り、またそのような思いと、子供の頃、父母に話したように、素直にコミュニケーションをとることができるでしょうか。子供が苦を感じていれば、父母も苦を感じます。また「父母が苦を感じていれば、子供も苦を感じます」。今もし、「あなたが苦しみの中にある」とすれば、先祖も苦を感じています。また、先祖が苦にあったなら、今のあなたも苦を感じているはず。先祖供養は、「先亡者だけの為」ではなく、「あなた自身の為」にも、絶大な効果を発揮します。先祖の念が速やかに浄化され、あなた自身も癒される、それが先祖供養です。天光寺では、どなた様の先祖供養も随時受け付けております。お気軽にご相談下さい。



韓国釜山の古刹梵魚寺を訪問

真言宗豊山派湯殿山総本寺 瀧水寺金剛院 大日坊貫主第95世遠藤宥覚様と真言宗白杵山天光寺住職 高尾聖賢は、韓国釜山の古刹梵魚寺を訪問しました。

左：高尾住職
中：大日坊 遠藤住職
右：梵魚寺 月庵宗印 住職



仏教講座三講

1、仏の教え

仏の教えは仏典で説かれている。言語はサンスクリット語で、漢訳されている。経典には八万四千の教えがある。釈迦が説いたものである。釈迦の教えを「法」、戒律を「律」、法の注釈を「論」と言う。教義には、小乗経典、大乘経典、密教経典がある。小乗経典は釈迦が弟子に説いた教え、大乘経典は釈迦の教えを在家信者に説くための教え、密教経典は密教の奥義を説いたものだ。般若心経は大乘経典であり、262文字に釈迦の教えの全てが凝縮されている。「般若」は知恵、「波羅蜜多」は彼岸へ渡ること、悟りを開くことで、「般若波羅蜜多」は悟りを開く知恵のことである。経典を訳したのが三蔵法師だ。

2、不動明王

この不動尊は大日如来の使者として考えられています。そもそも最高の悟りの境地に達している大日如来は、一般にはなかなか馴染みが薄くかけ離れた存在なので、不動尊と言う明王に姿を変えて衆生の救済に当たっているのです。地獄から天界までの六段階を「六道」といい、人は死ぬとこの六道を輪廻すると佛教では考えるのです。悩み、欲界を輪廻する六道の迷いの世界にあって欲望や執着を断ち切るように導いてくれるありがたい仏様が不動明王なのです。一見恐ろしく見える憤怒の形相は衆生を救済せんとする慈悲の表れです。このように不動明王は私たち人間が持つ欲望、迷いを断ち切ってくれるありがたい仏様です。

3、大黒天

ヒンドゥー教のシヴァ神の化身であるマハーカーラは、インド密教に取り入れられた。“マハー”とは大(もしくは偉大なる)、“カーラ”とは時あるいは黒(暗黒)を意味するので大黒天と名づく。あるいは大暗黒天とも漢訳される。その名の通り、青黒い身体に憤怒相をした護法善神である。密教の伝来とともに、日本にも伝わった。日本で大黒天といえば一般的には神田明神の大黒天(大国天)像に代表されるように神道の大国主と神仏習合した日本独自の神をさすことが多い。

信徒の会

信徒の会が結成されます。今日まで天光寺で修行をして、人間として生きる道を見つけた人は全国に居ます。この人達が信者としてさらに深く仏法を学ぶ場として、また社会奉仕活動のため、信徒の会を近いうちに結成します。皆様の意見をお聞かせ下さい。

天光寺へのアクセス

車の場合

檜原村役場の先のT字路を左折、約3km程、7分程直進後、笹平バス停を左手に白い看板を斜め左方向にのぼり旗に沿って500m直進

電車・バスの場合

JR武蔵五日市駅より数馬行きのバスで約30分、『笹平』で下車、徒歩10分